

## 村内のイノシシに関する文化財

平成31年の干支は猪ということで、イノシシと関わりのある文化財をご紹介します。村内で確認されるもので、イノシシが畑の作物を食い荒らさないように畑周辺に巡らされる猪垣などがあります。その他には、先史時代よりイノシシは貴重なタンパク源として恩納の人々にとって食料としていました。約3,500～2,500年頃の仲泊遺跡や伊武部貝塚、約2,000年前の塩屋貝塚、美留貝塚などでも人々が食べたものの中にイノシシが確認されています。山田久良波にある貝塚では、イノシシが飼育されブタ化したイノブタが出土しています。イノシシやイノブタは現在食べている豚と味の違いはあるのでしょうか？イノシシから飼育され、イノブタになってきたのはいつ頃でしょうか。ブタ化した時期は諸説あります。先史時代からあるという方や歴史時代になってからではないかなど様々です。お正月のお料理（ブタ料理）を食べながら考えるのも面白いかもしれません。



谷茶の畑跡と猪垣



イノシシが登れないようになっています。



塩屋貝塚出土のイノシシ骨（青線内）

## 文化財普及事業展示会

### 「サンゴ礁が育んだ恩納の暮らし展」を開催しました!

恩納村は豊かな海を保有する沖縄県下有数のリゾート地として知られ、海とかわるムラの暮らしには長い歴史があります。今回、平成30年7月21日の「サンゴの村宣言」を記念してサンゴと恩納村の暮らしをテーマに先史時代から現代へ至るまでのことについて企画展を開催いたしました。恩納村漁業協同組合の職員の方や関係機関、村役場各課の協力を得て開催できました。開催期間中は、村内の小中学生や村外からも多くの来館者がありました。ありがとうございました。

